

# 少雨に伴う農作物等の被害軽減対策について

平成 29 年 5 月 23 日  
広島県農林水産局農業技術課

○5月22日、広島地方気象台から「少雨に関する広島県気象情報第1号」が発表されました。

## 少雨に関する広島県気象情報 第1号

平成29年5月22日15時20分 広島地方気象台発表

(見出し)

広島県では、4月20日頃から降水量の少ない状態が続いています。この状態は、今後2週間程度は続く見込みです。農作物や水の管理等に十分注意してください。

(本文)

広島県では、4月20日頃から、高気圧に覆われて晴れる日が多く、降水量の少ない状態が続いており、4月20日から昨日(5月21日)までの降水量が平年の30パーセント未満の所があります。また、ここ数日は気温が高くなっています。

降水量の少ない状態は、今後2週間程度は続く見込みです。また、1週間程度は平年より気温の高い日が多いでしょう。

農作物や水の管理等に十分注意してください。

降水量(4月20日から5月21日まで)(速報値)

(気象官署及び特別地域気象観測所)

	降水量(ミリ)	平年比(%)
広島	70.0	39
呉	60.0	38
福山	46.0	38

最新の気象情報に注意しながら、次の対応策を参考に、被害を最小限に食い止めるよう対策に努めてください。

作物名	被害拡大防止のための対策
水 稲	<ol style="list-style-type: none"><li>1 地域の水源の水量を確認し、水不足の懸念がある場合は、計画的な水利用を行う。</li><li>2 漏水をなくすため、漏水しやすい畔には畔塗り、畔波シートなどを設置する。</li><li>3 代かきは、水を溜めすぎない。</li><li>4 田植後は、オーバーフローさせないように水を管理する。</li><li>5 水不足で田植えが出来ず苗が徒長した場合は、上葉1/3程度を刈り詰める。この時、いもち病の発生に注意する。</li></ol>
野 菜	<ol style="list-style-type: none"><li>1 かん水は地温が低下している早朝・夕方に実施する。 (1) 果菜類は土壌水分の急激な変化を生じないように、毎日灌水する。また、1日の土壌の乾湿の差を生じさせないように、早朝から日中にかけて数回に分けて灌水すると良い。 (2) 葉根菜類は播種期、移植期及び葉数増加期の重点かん水に努める。 (3) 畝間かん水は気温が下がる夕方から早朝に実施する。</li></ol>

野菜	<p>2 敷きわらやもみ殻で土壌を被覆し、地温上昇の抑制と土壌水分の蒸発抑制に努める。</p> <p>3 葉茎菜類は、乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。</p> <p>4 果菜類は、不良果の摘果、若どりを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適切な施肥により樹勢維持に努める。</p> <p>5 カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。葉面散布は、日中の高温時を避ける。</p> <p>6 収穫は気温の低い早朝に実施する。</p> <p>7 出荷時の過熟果や生理障害果の混入に注意する。</p> <p>8 ハダニ類、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ、うどんこ病等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。なお、日中の薬剤散布は避ける。</p>
果樹	<p>1 用水の確保に努め、敷わら、敷草等により、土壌水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かん水を行う。</p> <p>2 無降雨日数が7日程度以上続く場合は、1回20～30mm程度のかん水を実施する。水量が十分確保できない場合は、局部かん水を実施する。</p> <p>3 高温乾燥によりハダニ類、スリップス類、アブラムシ類が増加するため適期防除に努める。</p>
花き	<p>1 露地のキクやリンドウ等の場合は、地温が低下した夜間から早朝にかけて畝間かん水等を行う。ただし、滞水させると根腐れを起こすので注意する。</p> <p>2 畦面に敷きわら等を行い、地温上昇抑制と土壌水分の蒸発を防ぐ。</p> <p>3 高温乾燥によりハダニ類、スリップス類、アブラムシ類が増加するため適期防除に努める。</p> <p>なお、花蕾への付着後「しみ」にならないよう、日中の薬剤散布は避ける。</p>
畜産	<p>1 家畜        気温の上昇と共に採食量の減少、乳牛では泌乳量の減少、乳成分の低下、肥育牛では増体量の低下が起こるので以下の対策を行う。</p> <p>(1) 直射日光の遮断(寒冷紗)、屋根散水、白色塗装(屋根)等を行う。</p> <p>(2) 換気扇、送風機により家畜への送風や畜舎の換気に努める。</p> <p>(3) 新鮮な飲水を十分給与する。</p> <p>(4) 飼槽や給水器の清掃を行う。</p> <p>2 放牧        気温の上昇と、強い日差しの影響で、暑熱ストレスが増加するので以下の対策を行う。</p> <p>(1) 飲水の状況を確認し、不足していれば水を運搬する。</p> <p>(2) 必要に応じて、風通しの良い場所に日除けを設置する。</p>

問合せ先

西部農業技術指導所	東広島市八本松町原 6869	電話	082-420-9661
東部農業技術指導所	福山市三吉町1丁目1-1	電話	084-921-1311
北部農業技術指導所	三次市十日市東4丁目6-1	電話	0824-63-5181
県庁農業技術課	広島市中区基町10-52	電話	082-513-3564